

# 検証・7月4日 球磨川大水害



浸水する人吉市街地(熊本日日新聞2020.7.5)



災害翌日の人吉市中心街(九日町)

ごあいさつ

7月4日、球磨川流域は空前の豪雨に見舞われ、流域各所で氾濫。多くの方々が亡くなられました。被災された皆様、お亡くなりになられた皆様に、深くお見舞いお悔やみ申し上げます。

地球温暖化がもたらす海からの多量の水蒸気が線状降水帯となり、球磨川流域に長時間流れ続け、球磨川全域で桁外れの雨が長時間降り続けました。今回の洪水は、雨量も洪水水位も過去最大でした。一体どのような災害で、何が原因と考えられるのか。今後どのような防災対策が必要なのか。川辺川ダム問題を綿密に取材された「国が川を壊す理由」の著者、福岡賢正さんをお招きし、参加者みんなで考えたいと思います。是非ご参加ください。

日時：2020年 **8月23日(日)** 午後6時開会

会場：パレア会議室1(鶴屋東館9階) 熊本市中央区手取本町8-9

内容：現地報告 緒方紀郎さん(清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会)  
検証「川辺川ダムで被害は防げたのか」福岡賢正さん(元毎日新聞記者)  
流域治水の提言 松本久さん(阿蘇自然守り隊) 入場無料

参加申込：参加者各自の氏名と連絡先(電話番号)を明記してください。

申込宛先◆メール: stop.tatenodam@gmail.com◆FAX: 020-4668-3744◆郵送・電話: 下記連絡先へ

【重要】新型コロナウイルス感染症対策のため、入場を60名に限定しなければなりません。

事前の参加申込みを頂いていない場合、ご来場頂いても入場できない場合があります。

マスク着用をお願いします。体調不良の場合は参加をご遠慮ください。

会場の判断で中止する場合もあると思われます。ご理解のほど、よろしくお願いします。

主催：「検証7・4球磨川大水害」実行委員会

■連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13 中島康 電話 090-2505-3880

# 今回の球磨川大水害の原因は、何が考えられるのでしょうか？

## 【気候変動、雨量から】

・地球温暖化がもたらす海からの多量の水蒸気が積乱雲を連続発生させ、線状降水帯となり、球磨川流域に長時間流れ続けました。今回のように、球磨川全域で桁外れの雨が長時間降り続くことは、かつてなかったことです。今回の災害は、地球温暖化による「人災」だとも言えます。

## 【球磨川流域の地形から】

・空前の豪雨で球磨川は短時間で満杯となり、各支流の洪水が本流にはけきれずに越水したようです。球磨川が狭くなる人吉盆地の下流に行くほど洪水水位は高くなり、特に球磨村渡地区では、近年設置された排水ポンプや「導流堤」も全く役に立たない、桁外れの浸水でした。

## 【これまでの川づくりから】

・これまで流域の山林の溪流も、農業用水路も、球磨川の支流も本流も、少しでも早く洪水を下流に流すために直線化され、護岸はコンクリートで固められてきました。ところが人吉盆地の出口は川幅が狭くなり、流れがはけきれないために、人吉盆地下流ではかつてない速さで洪水水位が上昇したと考えられます。

## 【堤防はどうだったのか】

・今回の洪水まで、私たちは「洪水が球磨川の堤防を越えることはあるまい」と思っていました。ところが今回は、その堤防を2mも3mも超える洪水が来たわけです。堤防を3mも超えると、ダムの非常放水と同じで、あっという間に水位が上がる一因にもなったと考えられます。何より堤防があることで安心していただけで、避難が遅れた例も多かったようです。

## 【市房ダムの緊急放流】

・人吉市など下流域が浸水しているさなか、球磨川上流の市房ダムは7月4日午前9時半から緊急放流を開始すると熊本県が発表。各報道機関は下流の住民に対し、ダム緊急放流による水位の急激な上昇から命を守るよう、繰り返し警戒を呼び掛けていました。直前で緊急放流は回避できたようですが、ダムは緊急時には流域住民の生命財産を奪うものであることが改めて明らかになりました。

## 【もし川辺川ダムがあったならば】

・今回の洪水では、川辺川流域の降雨は球磨川本川の降雨と比べ、そこまで大きくなかったようですが、もし川辺川ダムが存在し、線状降水帯による今回のような豪雨が川辺川ダムの集水域を襲えば、ダムは満水となり、緊急放流をしていたのは明らかです。

## 【今後求められる災害対策】

・今後は、どんな規模の洪水が来ても被害を最小限度に収める「流域治水」の考え方が必要です。「想定以上」の洪水で満水となり、緊急放流を行うダムによる治水は、必然的に今後の洪水対策から除外されるべきです。今後は、流域全体で洪水をゆっくり流すことで、人吉盆地下流部への洪水の集中を防ぐ（洪水のピーク流量を下げる）ことが必要です。田んぼの貯水機能の活用、水害防備林（樹林帯）の復活、浸水する可能性のある地区の嵩上げや移転など、総合的な地域づくりを進めていくことも必要です。

以上のようなことを、今回の集会ではもっと掘り下げて考えたいと思います。  
「検証7・4球磨川大水害」実行委員会